

<p>2 現行授業の目標と教育効果及びそれに対する自己評価</p> <p>(記述式：900字以内)</p>	<p>現在担当しているいずれの授業も、保育者としての資質・力量を形作る要素のひとつである、保育・教育に関する知識や技能を、確実に身に付けるということを目指している。その際、その知識・技能の制度的・歴史的・理論的背景を併せて学習することにより、学生一人ひとりの中に自分なりの教育観・保育観が打ち立てられることを目指している。</p> <p>しかし、そうした知識や技能をただただ習得するだけでは不十分である。なぜなら、保育・幼児教育の現場においては、子どもたちの突発的な行動に臨機応変に対応する力量も、同時に必要とされるからである。そこで本授業では、知識の定着に加えて、それとは正対に、正解のない議論を仕合うこと、学生オリジナルのアイデアを出し合い発表することで、学生が自分なりの考えを深め蓄積してゆくことも意識して展開した。さらに、近年、子ども・子育て家庭、保育・幼児教育現場をめぐるさまざまな社会問題が起きているが、学生らは将来、それらの問題の解決の一助を担うことになる。そこで本授業では、こうした社会問題を授業の教材として多数取り上げた。</p> <p>平成29年度の自己評価としては、上記のような教育目標をおおむね達成できたと考えている。知識や技能の定着という点では、具体例を挙げたり中学・高校で受けた授業を振り返ったり、学生たちにとって飲み込みやすいように説明を工夫した結果がある程度表れたと考えられる。また、現代の子どもをめぐる社会問題の理解という点でも、学生にとって身近な題材を授業の中で積極的に取り上げ、学生同士での議論の機会を設けたり、学生たちの意見や考えを授業の中に多く取り上げたりすることによって、学生の興味関心を引き出すと同時に、課題解決能力が身に付いたと評価できる。</p> <p>さらに当該年度より担当している「保育・教職実践演習(幼稚園)」では、学生たちがより実践的な力を身に付けることができるようにするため、保育の現場で活躍する本学の卒業生を外務講師として招へいするという企画を立ち上げた。学生たちの反応はとて良好で、ねらいが達成できたと考えられる。</p>																				
<p>3 学生による授業評価も踏まえ、教育改善への取り組み</p> <p>(記述式：900字以内)</p>	<p>授業では、学生との双方向のコミュニケーションを意識し、学生一人ひとりの意見を授業に反映できるように、自由記述方式の「感想シート」を配布し提出を義務付けている。提出実績や記述内容を学習評価に活用するだけでなく、そこに寄せられた意見や質問を、次回以降の講義で紹介することで、学習内容の定着やディベートの導入としての役割も果たしている。こうした活用の仕方により、学生の講義への参加意識がより高まること、これまでの授業評価アンケート等で実証されている。</p> <p>しかし、自己評価として、この「感想シート」の記入・提出あるいは取りまとめを行う時間の確保が困難であることが多く、結果、学生たちの意見や考えを授業に反映させる機会が徐々に少なくなってきたという反省があった。そこで今年度は、意識的に学生の声や意見を取り上げる機会を多くした。</p> <p>また、これまでの授業評価において、「1コマの中で何を学んだのかが明確になりにくい」との指摘を受けて、今年度は、授業のはじめに前回学習内容の復習の時間を取り、最後には本時の学習内容のまとめをするよう心掛けた。その結果、授業の進度はやや低下したものの、学習内容の定着という点では、授業内での反応や「感想シート」に記述されている内容、そして期末試験の結果等から判断すると、多くの学生にとって理解の深まりに資することができたと判断できる。</p> <p>授業評価において、グループワークや学生同士の議論、「感想シート」に寄せられた意見や考えを紹介しながら進行する授業形態への評価が高かった。今後も、学生らが参加できるような仕掛けを考案し導入していきたいと考える。</p>																				
<p>4 教科書、教材の作成状況</p> <p>(記述式：300字以内)</p>	<p>現在担当しているすべての授業において、特定の教科書は使用せず、独自に作成したレジュメを配布し、進行している。授業のたびにレジュメを刷新できるため、制度変革期の保育・教育分野の最新の情報を学生らに提示することが可能となっている。また、学生らにとって、より平易な表現や身近な例示を盛り込むことで、学習活動への興味関心を高めることができている。</p> <p>プリントの形式は、重要語句を学習する单元においてはドリル(穴埋め)方式、議論によって学生の考えを深めるような单元においては、上記「感想シート」を活用し学生の意見や考えを記載し議論の進行の一助となるような方式をとるなど、学習内容によって変化を持たせている。</p>																				
<p>5 学生の指導(課外活動・厚生補導等)</p> <p>(主要10件以内)</p>	<table border="1"> <tr> <td>2014年5月～現在</td> <td>吹奏楽同好会(2015年4月より吹奏楽部)顧問</td> </tr> <tr> <td>2014年12月</td> <td>深川市子育て支援センター事業「わくわく広場」(於・深川保育園)の見学・担当者に対するききとり調査の実施(ゼミ生5名を引率)</td> </tr> <tr> <td>2015年1月</td> <td>海外短期研修・事前研修の実施(農学ビジネス学科1年生2名)</td> </tr> <tr> <td>2015年9月</td> <td>「障がい者支援施設ないえ」学園祭にて依頼演奏(吹奏楽部員12名を引率)</td> </tr> <tr> <td>2015年12月</td> <td>拓殖大学北海道短期大学 農学ビジネス学科・保育学科学生を対象としたアンケート調査「短大生の結婚・出産・子育てに関する意識調査」の実施(ゼミ生10名とともに実施)</td> </tr> <tr> <td>2016年4月</td> <td>海外短期研修・事後指導(レポート添削)の実施(農学ビジネス学科2年生3名)</td> </tr> <tr> <td>2016年7月</td> <td>「障がい者支援施設ないえ」学園祭にて依頼演奏(吹奏楽部員9名を引率)</td> </tr> <tr> <td>2016年10月</td> <td>第7回「ふかがわ街ぶら」にて演奏(吹奏楽部員8名を引率)</td> </tr> <tr> <td>2017年6月</td> <td>第1回北空知吹奏楽祭にて演奏・合同演奏への参加(吹奏楽部15名を引率)</td> </tr> <tr> <td>2017年10月</td> <td>第8回「ふかがわ街ぶら」にて演奏(吹奏楽部員5名を引率)</td> </tr> </table>	2014年5月～現在	吹奏楽同好会(2015年4月より吹奏楽部)顧問	2014年12月	深川市子育て支援センター事業「わくわく広場」(於・深川保育園)の見学・担当者に対するききとり調査の実施(ゼミ生5名を引率)	2015年1月	海外短期研修・事前研修の実施(農学ビジネス学科1年生2名)	2015年9月	「障がい者支援施設ないえ」学園祭にて依頼演奏(吹奏楽部員12名を引率)	2015年12月	拓殖大学北海道短期大学 農学ビジネス学科・保育学科学生を対象としたアンケート調査「短大生の結婚・出産・子育てに関する意識調査」の実施(ゼミ生10名とともに実施)	2016年4月	海外短期研修・事後指導(レポート添削)の実施(農学ビジネス学科2年生3名)	2016年7月	「障がい者支援施設ないえ」学園祭にて依頼演奏(吹奏楽部員9名を引率)	2016年10月	第7回「ふかがわ街ぶら」にて演奏(吹奏楽部員8名を引率)	2017年6月	第1回北空知吹奏楽祭にて演奏・合同演奏への参加(吹奏楽部15名を引率)	2017年10月	第8回「ふかがわ街ぶら」にて演奏(吹奏楽部員5名を引率)
2014年5月～現在	吹奏楽同好会(2015年4月より吹奏楽部)顧問																				
2014年12月	深川市子育て支援センター事業「わくわく広場」(於・深川保育園)の見学・担当者に対するききとり調査の実施(ゼミ生5名を引率)																				
2015年1月	海外短期研修・事前研修の実施(農学ビジネス学科1年生2名)																				
2015年9月	「障がい者支援施設ないえ」学園祭にて依頼演奏(吹奏楽部員12名を引率)																				
2015年12月	拓殖大学北海道短期大学 農学ビジネス学科・保育学科学生を対象としたアンケート調査「短大生の結婚・出産・子育てに関する意識調査」の実施(ゼミ生10名とともに実施)																				
2016年4月	海外短期研修・事後指導(レポート添削)の実施(農学ビジネス学科2年生3名)																				
2016年7月	「障がい者支援施設ないえ」学園祭にて依頼演奏(吹奏楽部員9名を引率)																				
2016年10月	第7回「ふかがわ街ぶら」にて演奏(吹奏楽部員8名を引率)																				
2017年6月	第1回北空知吹奏楽祭にて演奏・合同演奏への参加(吹奏楽部15名を引率)																				
2017年10月	第8回「ふかがわ街ぶら」にて演奏(吹奏楽部員5名を引率)																				
<p>6 その他</p> <p>(主要5件以内)</p>	<p> </p> <p> </p> <p> </p> <p> </p> <p> </p>																				

研 究 業 績				
1 研究分野・活動 (記述式：350字以内)	<p>近年、学校教員の多忙が社会問題として取り上げられるようになり、日本の教員の業務の量的・質的な特殊性が国内外より指摘されはじめています。こうした現状を受けて、他職種連携や「チームとしての学校」の推進等、学校組織の大幅な再編が強力に進められようとしている。</p> <p>こうした教育改革の結果、学校組織はどのように変容したのか、また個人としての教員の仕事や生活にはどういった変化が表れているのかを明らかにする必要があります。</p> <p>本研究では、学校組織を、ジェンダーや世代、地域、学校規模などの視点を用いて分析することで、より深く実態に迫りそこでの課題を明らかにすることを目的としています。研究の手法として、アンケート調査とインタビュー調査とを併せて実施することで、教員集団のより立体的な実像を描こうとしている。</p>			
2 研究課題 (今後の展開・可能性を含む) (記述式：350字以内)	<p>「北海道における教育専門職（保育者・教員）の仕事と生活に関する社会学的研究」</p> <p>これまでに行った、全道女性教職員を対象としたアンケート・インタビューのデータの分析を継続し、学校組織をジェンダーの視点から分析する研究として、論文等の形にして示す予定である。</p> <p>またこれに加えて、昨年度より加わっている文部科学省科学研究費の分担研究として、今年度は「学校運営と教員のヘルスケアに関するアンケート調査」を企画・立案した。現在の教員の健康問題の実態と、それに対する学校管理職の対応のあり方と課題について明らかにしようとするものであり、次年度以降論文等の形で発表する予定である。</p>			
3 研究助成等 (主要5件程度)	<p>(1) 文部科学省科学研究費 (課題番号 15H03490) 基盤研究(B)「グローバル化下の教師 —生活と意識・専門職性の変容—」(研究代表者：油布 佐和子、研究期間：平成27年度～29年度) 研究分担者</p> <p>(2) 学内 なし</p> <p>(3) 学外 なし</p>			
4 資格・特許等 (主要3件以内)	<p>高等学校教諭 第一種普通免許状(地理歴史)</p>			
著書、学術論文、作品等の名称 (主要15件以内)	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行又は発表 雑誌等又は発表 学会等の名称	要 約
(著書) 実践事例 一歩進んだ「学校支援」をめざして --東京・三鷹市 NPO 法人夢育支援ネットワークの SA (スタディ・アドバイザー) 活動の取り組み	共著	2008年3月	新教育課題研究会編『新教育課題の要点と実践』追録第50号～51号、「第Ⅱ編 学校経営上の諸課題・学校支援ボランティア」	<p>東京都三鷹市に2003年に設立された「NPO 法人夢育(むいく) 支援ネットワーク」の学習支援ボランティアのコーディネーター事業のシステムやノウハウを紹介したテキストである。その最大の特徴は、特別な知識や専門性を持たない地域住民や児童生徒の保護者も学習支援に関わることができる SA (スタディ・アドバイザー) の取り組みにある。</p> <p>こうした学習支援のシステムは、地域住民が、学校を介して自分たちの住む地域に対して主体的に関わる契機となると同時に、学校にとっても、地域との連携によって、授業実践のさらなる充実が期待できる。</p> <p>このシステムは、現在そのニーズが高まっている地域住民・保護者と学校・教員の協働・連携に有意義なアイデアを示すものといえる。</p>
(学術論文) 公教育再編過程下の「学校・教員マネジメント」に関する議論の変遷について --1990年以降の中教審答申を中心に--	単著	2009年6月	北海道大学大学院教育学研究院『北海道大学大学院教育学研究院紀要』第107号	<p>本論文では、1990年代以降の教育改革を、その推進主体に着目して時系列的に追い、教育政策の変遷を整理することを課題とした。</p> <p>その結果、1980年代後半の臨教審答申が「学校のスリム化」と、カリキュラム改革(いわゆる「ゆとり教育」)とを強力に牽引しただけでなく、教員個人の力量形成の推進と教員集団の再編を促す学校組織改革といった教員制度にも影響を与えているということが改めて浮き彫りになった。</p>

小学校女性教員の仕事と生活をめぐる困難とその「乗り越え」--教職アイデンティティに関する議論をてがかりに--	単著	2010年6月	北海道大学大学院教育学研究院『北海道大学大学院教育学研究院紀要』第112号	<p>本論文では、女性教員の仕事上の困難の実態と構造を把握することを課題とした。</p> <p>アンケート・インタビュー調査の分析の結果として、教員が感じている「仕事の悩み」とは、児童・生徒の教育活動からの逸脱行動の増加を背景として、そうした状況への対応が、教員が理想とする豊かな授業実践や教材研究の実現を阻んでいることが、“自分がしたいと考える教育活動ができない”という悩みへとつながっていることが明らかになった。</p>	
〈進路指導——学習指導・生徒指導〉の下方スパイラル的困難化に関する予備的考察	共著	2014年3月	北海道情報大学『北海道情報大学紀要』第25巻第2号	<p>今日、「学校から企業への移行」が不安定化することともなっていて、とりわけ高校では、進路指導が困難化すると同時に重要視されている。</p> <p>本稿は1960年代以降の社会情勢を追いながら、進路指導の困難は、学習指導・生徒指導の困難性と連動しているという仮説を立ち上げ、検討したものである。</p>	
教員の職場における「ジェンダー・バイアス」--女性教員の職務配置のあり方に着目して--	単著	2014年6月	北海道社会学会『現代社会学研究』第27号	<p>本論文では、教職の職務配置の論理に着目し、ジェンダー・バイアスが生成・維持される仕組みを、教員集団に焦点化することで明らかにしようとした。</p> <p>その結果、職務配置にジェンダー・バイアスが認められるにもかかわらず、教員らは、自身の職場を「ジェンダー・バイアスのない職場」と評価していることが明らかになった。こうした実態と認識のずれを生じさせるのは、職場のジェンダー・バイアスは、家庭責任を持った女性教員に対する「配慮」の結果として理解されていたことに由来するということが明らかになった。</p>	
(学会等発表)					
高等教育における学生指導の現状	単独	2015年11月	2015年北海道合同教育研究全道集会(第19分科会)	<p>本発表は、本学で発表者が日々行っている学生指導における工夫や困難を題材に、現在の高等教育における学生指導の課題を明確化しつつ、その解決方法について考察したものである。</p> <p>同時に、こうした学生指導の方策の変容は、教員の労働における質・量的変化をもたらすことが指摘できる。教員の多忙という問題の、解決のしにくさを表しているといえる。</p>	
保育者養成校におけるゼミナール活動実践を通じた学生の学びの展開と課題--子育てという営みを再考する試み--	単独	2016年3月	北海道教育学会第60回研究発表大会	<p>本発表では、本学で発表者が今年度実施したゼミ活動を題材に、学生の学習活動の深化と展開について考察したものである。</p> <p>2015年度より本格化した地域子育て支援事業についての学習、実際の担い手に対するインタビュー調査を通じて、学生が子どもや子育てについて自身の持つ既成の概念を捨象し、客観化する過程を示した。</p>	
北海道教育庁による「幼児教育アドバイザー」施策の課題と展望	単独	2017年3月	北海道教育学会第61回研究発表大会	<p>2006年の教育基本法の改訂以降、幼児教育に求められる役割はこれまで以上に高まっている。そうした状況のなか、幼稚園教育の担い手の力量形成は、取り組むべき重要な課題のひとつに位置づいている。</p> <p>本発表では、北海道で2016年度より開始された幼児教育推進体制構築事業のひとつである「幼児教育アドバイザー」の派遣・育成事業について、小・中・高等学校に焦点化されてきた「教員の資質・力量向上」の議論を参照することによって、その課題と展望を提示した。</p>	
研究業績(過去3カ年分)				国際的活動の有無	社会的活動の有無
著作数	論文数	学会等発表数	その他		
0	2	7	0		
				無	有

学 内 運 営 業 績		
1 役職、各種委員会等 (主要 10 件程度)	2014 年 4 月～2016 年 3 月	学生委員会 委員
	2014 年 4 月～2016 年 3 月	地域・国際交流委員会 委員
	2016 年 4 月～2018 年 3 月	学生・地域国際交流委員会 委員
	2016 年 4 月～2017 年 3 月	図書委員会 委員
	2016 年 4 月～2018 年 3 月	自己点検・評価委員会 作業部会 委員
	2017 年 4 月～2018 年 3 月	入試広報委員会 委員
学 外 活 動 業 績		
1 本学以外の機関(公的機関・民間団体等)を通しての活動 (主要 10 件程度)	2015 年 4 月～現在	せいとく介護こども福祉専門学校 教育課程編成委員会委員
	2016 年 10 月	深川市市民公開講座・講師(テーマ:「男らしさ」「女らしさ」って何だろう)
	2017 年 4 月～9 月	深川市子ども・子育て審議会臨時委員
	2017 年 5 月	旭川藤女子高校 進路相談会・模擬授業(教育学)
	2017 年 6 月	札幌新陽高校 進路ガイダンス・模擬授業(保育士・幼稚園教諭養成)
	2017 年 7 月	白樺学園高校 進路相談会・模擬授業(保育・幼児教育)
	2017 年 10 月	北海道羽幌高校 職業ガイダンス・模擬授業(保育)
	2018 年 2 月	クラーク記念国際高校 模擬授業(保育)
	2018 年 3 月	私立短期大学図書館協議会北海道地区協議会 平成 29 年度研修会講師(テーマ:アクティブ・ラーニングをサポートする大学図書館の効果的な活用とは)
2 学会・学術団体等の活動 (主要 10 件程度)	日本教師教育学会 会員	
	日本教育社会学会 会員	
	日本教育学会 会員	
	日本労働社会学会 会員	
	北海道教育学会 会員	
	北海道社会学会 会員	
	女性労働問題研究会 会員	
	北海道ジェンダー研究会 会員	